

那覇西ロータリークラブ

国際ローター-2580地区 創立1962年6月4日

2026年2月4日 週報 第2788

会長 丸橋弘和 副会長：中村 敦・小林 充
幹事：江夏正浩
例会日 毎週水曜日 12時30分
例会場 沖縄ハーバービューホテル
事務局 那覇市松山1-1-14 那覇共同ビル6階
TEL：861-7824 FAX：861-7825



2025-26年度 RI会長 フランチェスコ・アレツツォ

地区ガバナー 中川雅雄
今年度会長テーマ

「Dignity」 & 「Engagement」

四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を
深めるか
4. みんなの為に
なるかどうか

本日のプログラム
2月21日(水)
・点鐘
・ロータリーソング
・奉仕の理想
・会長報告
・幹事報告

例会報告

第2921回(2026年1月21日)

出席報告

会員数	出席数	欠席数	出席率	訂正出席率
58名	36名	21名	62%	%

欠席会員

石川、豊村、大城(博)、福重、三浦、照屋(紀)、中村、南風原、高平、仲程、福本、稲嶺、新垣(嘉)川畑、与古田、池田、石川(元)、比嘉(圭)、近藤宮城(圭)、野原会員

出席報告1月、

会員数	7日	14日	21日	28日	日	平均
59名	%	72%	62%	%	%	67%

ビジター

須藤 仁(東京麴町) 根路銘 敦(那覇東)
IVA 保坂(沖縄首里) ジョンソン美枝(沖縄首里)

ゲスト

平木拓宏(ゲストスピーカー)
酒井秀史()
井上結喜(那覇西RC奨学生)

メイクアップ会員

富島美樹(12/24 宜野湾) 宮内一郎(12/24 宜野湾)
藪亀達哉(1/21 宜野湾) 丸橋弘和(1/21 宜野湾)
江夏正浩() 豊村良春()
城間 一() 比嘉広明()
高平光一() 小林 充()
仲程道秀() 新里順一()
小嶋 久() 富島美樹()

ニコニコBOX(2026年1月21日)

合計 ¥7,000 累計¥172,000

IVA 保坂 次年度さらに沖縄首里と那覇西RCとの連携を
ジョンソン美枝 楽しみにしています!

(沖縄首里)

須藤 仁 ポリオ・米山・バギオ お世話になります。
(東京麴町)

石垣 伸 新年 初参加なので

(会長挨拶)

今月のテーマは「職業奉仕月間」です。会長からのメッセージとして、最後に示されている4つの問いは、形式的なものではなく、誠実な奉仕の在り方を私たちに示す指針であり、各クラ



ブが「4つのテスト」と共に歩いていこうという内容となっています。詳細はロータリーの友に記載されていますので、ぜひご一読ください。

また、昨日は毎月開催しているワインを愛でる会の第5回を実施しました。今回はシャンパーニュおよびスパークリングワインをテーマに、少人数ながら6名で学びと交流を深めました。

今後の予定として、本日は宜野湾ロータリークラブ創立60周年行事への参加、22日には拡大炉三木会および東京でのクラブ活性化セミナーへの出席を予定しております。さらに月末から2月にかけても各種行事が続きますので、詳細は週報等をご確認ください。

(幹事報告)

第37回インターアクト沖縄文化大会についてお知らせします。これまで2月に実施していた「3年生を送る会」から名称を変更し、今回は「インターアクト沖縄文化大会」として開催されます。

2月21日(土)13時

45分受付開始で、各校の活動報告および国連ワークショップを予定しています。会場是那覇市の昭和薬科高校ですので、時間のある方をご参加をお願いいたします。

また、例会日程の変更についてご連絡します。1月28日の那覇西例会は振替で休会となります。さらに重要なお知らせとして、3月4日の例会を3月3日(火)に変更します。会場はパシフィックホテル2階で、那覇・那覇西・那覇南の合同例会となります。若林パストガバナーの卓話がありますので、多くの皆さまの参加をお願いいたします。

(卓話 海上自衛隊第5航空群司令 平木拓宏 海将補 酒井秀史 1等海尉)

昨年8月に沖縄へ着任された海上自衛隊第5航空群司令の平見氏より、自己紹介と部隊の役割、そして現在の任務状況についてご説明がありました。平見氏は固定翼機の操縦士として長年勤務され、今



年60歳の年男であり、定年前の最後の勤務地として沖縄で任務に全力を尽くす決意を述べられました。

海上自衛隊は艦艇部隊、航空集団、潜水艦部隊などで構成され、定員は約4万5千人に上ります。そのうち航空集団は約1万2千人と全体の4分の1以上を占め、艦艇と航空機を組み合わせた立体的な運用を行っています。航空部隊は全国に配置され、固定翼機は滑走路を有する基地から、ヘリコプターは港に近い基地を拠点として運用されています。

那覇基地は航空自衛隊と施設を共有しており、航空管制、消防、医療など一部機能を航空自衛隊が担っています。そのため第5航空群の人員は約700名と比較的少人数ですが、担当する東シナ海は日本の安全保障上、極めて重要な海域です。

第5航空群の最大の任務は、日本周辺海域における警戒監視です。特に東シナ海では、他地域よりも高い頻度で哨戒を実施し、固定翼哨戒機の速度と航続距離を活かして、海上のあらゆる目標を日々識別・確認しています。中国海軍や中国海警の動向、尖閣諸島周辺の状況についても、海上保安庁や航空自衛隊、陸上自衛隊と連携しながら、継続的な情報収集と監視を行っています。

また、日中中間線付近に設置されているガス田施設についても、稼働状況を日常的に確認し、関係機関へ情報提供を行っています。中国本土と沖縄の距離は非常に近く、緊張感の高い環境の中で、航空自衛隊の支援を受けながら慎重な運用が続けられています。

さらに、海上交通の安全確保という重要な役割として、アデン湾・ジブチを拠点とした海賊対処行動にも長年参加しています。護衛艦と哨戒機を常時派遣することで、日本と世界を結ぶ海上交通路の安全を守り、実際に海賊被害を大幅に抑止する成果を上げています。

そのほか、災害派遣任務として地震や津波発生時の情報収集にも対応しており、有事だけでなく平時においても国民の安全を支えています。加えて、首里城復興支援、平和記念公園や海軍壕の清掃活動、離島の子どもたちに雪や南極の氷を届ける交流事業など、地域と共に歩む活動にも積極的に取り組んでいます。

以上のように、第5航空群は日本の防衛、国際社会への貢献、そして地域との共生を柱として、沖縄の地から日本の安全と平和を支える重要な役割を担っています。

